

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇上田学園コレクション2013

ー塩ビ素材を用いた「msism」が毎日新聞社賞を受賞ー

## ■随想

◇世界紛争地帯に行く？

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

## ■編集後記

## ■トピックス

◇上田学園コレクション2013

ー塩ビ素材を用いた「msism」が毎日新聞社賞を受賞ー

1月26日に、第130回上田学園コレクション2013がグランキューブ大阪（大阪国際会議場）で開催されました。今回のテーマは「DIGNITYーファッションの尊厳ー」で、国内外の様々な問題を抱えた混沌とした状況の中であって、服を選んで着ることは生き方を選ぶことであり、原点であるファッションの尊厳を問い直し、学び、考えて、「ファッションと生きていく」ことを見つめ直すことにあります。メインホールでは学生の創作によるファッションショーが2部に分けて開催され、3000人を超える方が華やかで楽しい作品に魅入っていました。また、会場入り口の展示ホールには約300点のアパレル作品やバッグ・靴・帽子などの工芸作品が展示されました。



ファッションショーの様子

学生ブランド作品はコンセプトからデザイン・パターン、縫製・スタイリング、音楽選曲までを全て学生の企画で作上げたオリジナルブランドで、地場産業の素材や加工技術を使用したコラボレーションが展開され、5つのグループがそれぞれ7名の学生で作り上げて、当日に発表して審査を受けるものです。

魅力的なブランド作品が多い中で、前回の上田安子ブランド大賞に続いて、塩ビ素材を活かした「msism」が毎日新聞社賞に選ばれました。昆虫の身を守るために進化した外見や鮮やかな色彩を人間に重ねて、衣服を進化させた試みで、透明感のあるグリーンの塩ビ素材を丁寧に組み上げて衣服と合体させ、違和感なく表現されていることに感心しました。塩ビ素材はオカモト(株)と白金化成(株)から入手されたもので、受賞された学生さんたちとともに関西塩ビ業界関係者一堂も喜びに浸りました。



「msism」

ホールに展示された作品には(株)河野プラテックの河野社長が代表を務める関西若手経営者の集まり「PVC維新の会」が上田安子服飾専門学校と産学協同して作り上げた「ビーチサンダル」が展示され、バッグや靴にも色鮮やかな塩ビ素材が生かされていました。

今回の連続受賞は塩ビ素材が身近な材料として認知され、新たな可能性を追求する機会にもなっていると感じました。その機会をビジネスに活かしていけるように、塩ビ関連団体とともに成果に結び付けていける様に支援を続けていきたいと思っています。これからも、上田学園と塩ビ業界とのコラボレーションが続けられ、東京、名古屋など全国のデザイン関連学校でも、その輪が広がっていくことを願っています。



収納ポーチ付ビーチサンダル

## ■ 随想

### ◇世界紛争地帯に行く？

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

ブルキナファソ旅行記が終わり、ベナン旅行記に移る予定でしたが、ちょっと、現在のアフリカ情勢を見てみることにしましょう。

既にニュースでご存知かとは思いますが、私が2011年に訪問した[マリ共和国](#)。



マリ共和国の子どもたち。  
ナニナニ写真撮ってくれるの？

2012年1月16日、正装は青が基調の布を使っているため、ブルーマンとも呼ばれているトゥアレグ族(北アフリカを中心に、アラブ人が来る以前から住んでいる先住民族、ベルベル人で、サハラ砂漠で遊牧生活をしている一族)が、アラブ人支配からの独立を求めて蜂起。マリ共和国北部(サハラ砂漠)で紛争が起こります。

2012年3月22日、紛争で国内が混乱したことに乗じ、軍事クーデターが起こり憲法が停止。軍人の Amadou Haya Sanogo 氏が大統領に就任。

2012年4月6日、トゥアレグ族の反政府武装組織「アザワド解放民族運動

(MNLA)」とアラブ系のサラフィー・ジハード主義組織「アンサル・ディーン」が北部三州(アザワド)を制圧し、アザワド独立宣言を発表。

最初はアラブ人からの支配から独立するために蜂起したトゥアレグ族が、なぜ、アラブ系の組織と手を組んだのかは、現在のところはっきりしていません。

かなり、おいしい話でもあったのでしょうか？

2012年4月12日、反政府勢力の台頭と軍政であることへの批判から Amadou Haya Sanogo 大統領が辞任し、国会議長であった Dioncounda Traore 氏が暫定大統領に就任。

その後、この混乱に乗じ、国際テロ組織アルカイダ系武装組織「イスラム・マグレブ諸国のアルカイダ (AQIM)」がマリ共和国に侵攻し、同じアラブ系のサラフィー・ジハード主義組織「アンサル・ディーン」と合流。トゥアレグ族の反政府武装組織「アザワド解放民族運動 (MNLA)」は敵対組織として攻撃され崩壊、と目まぐるしく状況が変化。今日の味方は明日の敵。

2013年1月には自国だけでは国内を治めきれなくなったマリ共和国政府は、この地域でのアルカイダ勢力の台頭を恐れる、旧宗主国フランスとアルカイダ支配地域に侵攻し戦闘はいまも続いています。

私が2012年に訪問したブルキナファソもマリ共和国と隣接しているため、フランス軍と共同行動をとっており、一部のブルキナファソ国軍はフランス軍とともにマリ共和国内でアルカイダ掃作戦に従事しているとの情報もあります。

このような状況の中、紛争地域から非難するマリ人も急増。ブルキナファソに約20,000人、モーリタニアには約67,000人の難民キャンプが開設されるなど、この1年で30万人以上のマリ人が周辺国に脱出する事態となっています。

2010年9月、私が訪問したチュニジアでは、12月18日に「アラブの春」と呼ばれる民主化運動の発端となったが「ジャスミン革命」が起こり、エジプトなどイスラム諸国に拡大。23年間続いたチュニジアのベン・アリー政権は崩壊。

2011年2月17日にはカダフィ大佐により30年上の長きにわたり独裁が続いていたリビアにも飛び火。リビア全土が内戦状態に。内戦は国連でも取り上げられ安全保障理事会で非難決議採択。これを受け、NATO軍がリビアの内戦に介入。

2011年8月24日、首都トリポリ陥落。

2011年10月20日、カダフィ氏射殺。

[リビア](#)も、この旅行記でも紹介しましたが、ちょっとだけですが、訪問した国です。



チュニジアの女の子  
今日はちょっとおめかし

レバノン紛争終結後、何度も訪問したシリアは、現在、政府軍、反政府軍の対立で国はめちゃくちゃ。

2011年1月26日、「アラブの春」に同調したハサン・アリ・アクレイ氏が長期軍事政権を続けていたアサド政権に抗議するため、焼身自殺を図ったことを発端に、抗議活動が全国で発生。政府軍と衝突は徐々に激しくなり、内戦状態に。

2012年8月20日、国連安全保障理事会のシリア監視団撤退。

国連は安全保障理事会で非難決議を行おうとしましたが、アサド政権と親交があるロシアと中国が拒否権を発動。リビアのように国連の決議を受け、各国が連携して紛争の終結に動くことができない状況になっています。

シリアに関しては、テレビのニュースを見ていたら、ダマスカスに行く度に立ち寄っていたピザ屋さんのお兄さんが、対戦車砲を抱え、政府軍の戦車に向けて攻撃をしている風景が映り、ビックリ。シリアの友人にメールで問い合わせたところ（紛争中ですが、メールは繋がっています）、「いまでは彼は優秀な戦士だ」との回答が返ってきました。



シリアの人たち。  
ご馳走してくれてありがとう (^\_^)

これまでも、イスラエルとレバノンで停戦協定が結ばれ、安定したかと思いき、レバノンに行くとイスラム教徒とキリスト教徒の間で内戦が勃発。

スーダンに白ナイル川と青ナイル川を見に行くと、南北地域の対立が深まり、最終的には南スーダンと北スーダンに国が分裂。

アフリカの穀倉地帯と呼ばれた、豊かな国ジンバブエに行くと、ムガベ大統領が人気取り政策を行い、経済が大破綻。ウルトラ・スーパー・超インフレとなり、1米ドル=0.68ジンバブエドルだったものが、2008年には1米ドル=256,000,000ジンバブエドルに。この時は1,000億ジンバブエドル紙幣まで登場。インフレ率も2008年7月だけで231,000,000%に。

う〜ん、私が訪問をすると、その国は崩壊するのか、崩壊しそうな国に私が行っているのか？

そういえば、1980年代の話になりますが、アルジェリアに行きました。私が滞在していたすぐ隣の街で、日揮と三井東圧化学がジョイントでプラントを建設していました。日揮はこの頃からアルジェリアで三井東圧化学だけでなく、複数のプラント建設を請け負っており、日系企業の中でも大きな現地事務所を首都のアルジェに開設していました（もしかすると、一番大きな事務所だったかもしれません）。

あの頃、アルカイダはいませんでした。イスラム教徒による外国人誘拐事件が頻発しており、ほとんどの外国人は外出の際「黒い蝙蝠」と呼ばれるガードマンが付き添っていました。

私ですか？ お気楽に、一人でアルジェリア国内をウロウロしていました (^\_^)

⇒ [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

震災から丸2年が経過しました。あの日と同じ場所で仕事をしていますが、当時、地震の少し後、職場の別の部屋にあるテレビを見ていた人がドラム缶とか車が流れていると言い、最初はこの人は一体何を言っているのかと思いましたが、それが津波の状況を映した映像でした。生涯あの悲惨な状況は忘れることはできません。亡くなられた方のご冥福と一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。(ももった)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)